

「hue学生プロジェクト'20」(チャレンジ部門)採択一覧

キャンパス名	プロジェクトの名称	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況 (随時発信していきますのでぜひご覧ください。)
札幌校	「とっつきやすい」をめざした読書教育～ 絵本を用いて～	<p>本プロジェクトでは、絵本を用いた新しい読書教育を考案する。「札幌らしい特色ある学校教育」の3つの柱の一つである「読書」をより一層活発にしていくために、現場の実情を踏まえながら、子どもも「とっつきやすい」読書、教員も「とっつきやすい」読書教育を検討していく。そこで、札幌市やその近辺の図書館や絵本に特化した図書館を訪問したり、実際の学校現場を調査したりしながら、より現実的で実践しやすい読書教育を目指す。</p> <p>最終的には、「さっぽろ国語研究会」にて現場の先生方に実践案として考案した読書教育の一例を発信する。</p>	
函館校	地域教材のリソース整備とアクティブ型 学習環境の試行 —社会科副読本の”デジタル化”と地図 教材の活用を通じて—	<p>本プロジェクトでは、小・中学生が地域理解を深めるためのリソース(写真・動画・統計データ等)を集約して、主体的な学習を誘発するような環境づくりを試行する。具体的には以下の3点に取り組む。</p> <p>(1) 小学校社会科副読本の”デジタル化”作業 「社会科副読本」には各教科・領域に通じる重要な学習資源が集約されているが、印刷資料だけでは地域社会の実情と接点を持たずに非常に惜しい。そこで各種統計資料や映像資料などを集約しておき、既存の教科書資料と接合できる「ガイド教材」を作成する。</p> <p>(2) 地域理解を深めるためのリソース集約 学芸員や歴史講座主催者など、地域に詳しい協力者への聞き取りを通じて、現在と過去の地域の姿を比較できる教材を集める。同時にわれわれ自身も、函館近郊の経年変化を実感できる素材を収集する(写真、動画の撮影や関連新聞記事のスクラップ等)。</p> <p>(3) 「地理院地図」などのGIS教材を活用したアクティブ型学習環境の試行 児童生徒が調べ学習やグループ調査などを通じて、その成果を地図上に表現できるような環境を試験的に構成する。学校教育にも馴染みの深い、国土地理院が提供するウェブ版「地理院地図」のカスタマイズと各種GIS(地理情報システム)環境の応用を考える。将来的には「情報活用能力」の育成に通じる手法の一つとして提案したい。</p>	<p>https://www.instagram.com/geopro_huehak/?hl=ja</p> <p>https://twitter.com/trampro_huehak?lang=ja</p>
函館校	コロナ禍におけるアプローチカリキュラムの実践	<p>新型コロナウイルス感染症により、従来行われてきたアプローチカリキュラムの一つである小学校への体験入学ができない状況下にある。</p> <p>私たちは、withコロナで行うことができるようなアプローチカリキュラムのひとつを実践し、これからのアプローチカリキュラムの一形態を提案する。</p> <p>H市にある認定こども園一園において、小学校探検及び当該小学校の校長先生からのメッセージVTRを制作し、上映する。</p> <p>パンフレットを作成し、認定こども園の子どもに配布する。</p>	<p>https://twitter.com/WranptBdNiocnhq</p>
函館校	みんなの故郷☆函館プロジェクト	<p>これから函館にくる留学生にコロナ禍での不安や留学にあたっての不安を軽減してもらうために、そして1年しかない留学生活を楽しんでもらい、第2の故郷と思ってもらうために、元留学生から、教育大生から、地域の方々からの3つの観点から、函館や教育大の魅力についての冊子やガイドブックをやさしい日本語を用いて発行する。</p>	<p>https://www.instagram.com/hakopro20/?hl=ja</p>